

島根県立隠岐島前高等学校

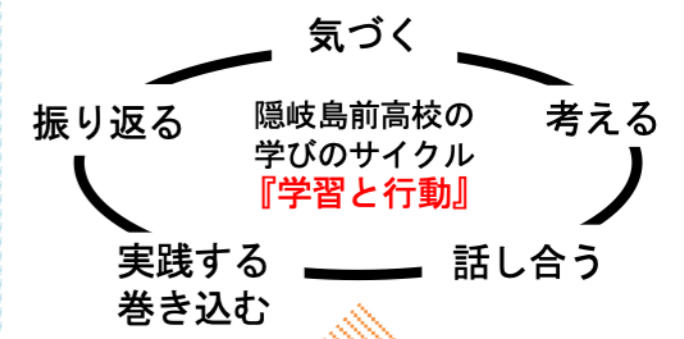
地域との協働による高等学校教育改革推進事業 全国サミット

『離島発「グローバル人材」を育成するための
「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究』

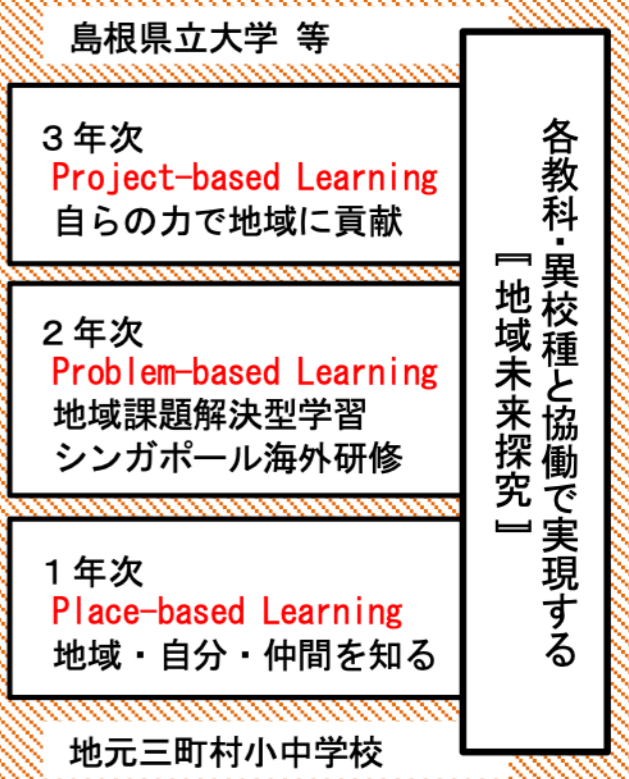
島根県立隠岐島前高等学校
令和5年1月17日

研究開発の概要

離島発「グローバル人材」育成のための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

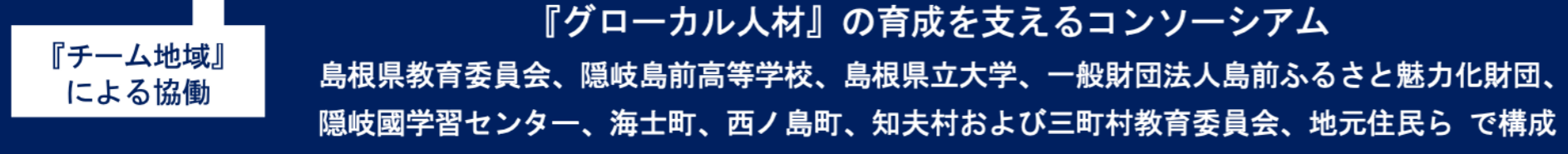


隠岐島前高校の3つのPBL



学校全体および事業対象の生徒数

学科\学年	1	2	3	合計
普通科	44	50	63	157



研究開発の概要（令和4年度研究開発計画書より）

これまで本校が実施してきた生徒らがチームで挑む「地域課題解決型探究学習」およびシンガポール海外研修での成果発表は継続して実施する。

今回の研究開発では、そういった探究学習のプロセスと各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉える「地域未来探究」を構築する。「地域未来探究」では、探究学習に合わせて各教科で島前地域とシンガポールとの比較研究を行うことなどを想定する。これまでも英語科のパフォーマンステストとシンガポールでの最終発表スライドを連携させるなどしてきたが、これを数学や地歴・公民等の複数教科で展開する。

そのために必要なリソースを地域内外の叡智を結集して構築する「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑戦する。

研究開発計画1

「グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施」

【研究計画内容】

スーパーグローバルハイスクール事業でも実施してきたグローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業を単発から継続的に創出し、プロフェッショナルたちのリーダーシップ、思考力や判断力、課題解決の創造性や粘り強さに触れるだけでなく、人間性や将来のグローバルなビジョンに触れることで生徒自らの現在地を探究する機会とする。また、生徒が実際に取り組む地域課題解決についてもアドバイスをもらえるような仕組みを構築する。



夢探究（総合的な探究の時間）、地域地球学・リベラルアーツ（学校設定科目）、クロスカリキュラムによる教科の授業などの機会について、島内外から様々な分野のプロフェッショナルをゲストに招いた。本事業を進める3年間では、年間約50名～100名の講師に関わる機会をいただいている。

魅力化評価システムにおける「学習環境（学びの土壌）：社会性に関わる学習環境」では、年々ポイントを伸ばし、令和4年度では91.9%にいたり、他地域比較においても+22.33%となっている。

研究開発計画1

「グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施」

単発（スポット）の機会から、より継続的な関わりへ



©2022年12月26日山陰中央新報

夢探究（総合的な探究の時間）では、それまでの単発（スポット）で講師依頼をする形から、地区探究（1学期後期）・ゼミ探究（2学期前期）・地域共創実践活動（2学期後期）と、それぞれのねらいを持ちながら、一定の活動期間を設け、その中で地域のプロフェッショナルに伴走していただく形を実践している。

また、リベラルアーツや地域地球学（学校設定科目）では、3ヶ月～1年間の長期期間、本校教職員やコーディネーターと共に、授業設計～伴走までを共に行なっていただいている。

研究開発計画2 「国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施」

【研究計画内容】

地域課題と地球規模の課題を「結び付けて」考えるべく積極的に外へ飛び出し、「他流試合」の機会を創出する。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大幅に計画変更をしたが、海外渡航ができなかったとしても、ブータン、シンガポール、ミクロネシアとの交流事業を実施し、「グローバル人材」を仮定して国内外での知見や事例をどのように地域に活用するのかについて探究する機会を創出する。同様に、同世代との交流を通じ将来のビジョンなどに触れることで、多文化協働の基本姿勢や探究力、未知なる世界での主体性を高める契機とする。



グローバル探究（ブータン）
島前地域×ブータン「芸術」



地域国際交流部
ミクロネシア交流

スーパーグローバルハイスクール事業時から、グローバル探究として様々な海外の国と交流を実施してきた。本事業でも引き続きグローバル探究（ブータン・ミクロネシア等）を実施しているが、地域国際交流部（部活動）でも、ミクロネシアやオーストラリア、ネパールやグアテマラとの交流も始まっている。また、教科の授業でも、令和3年度には、「地理×JICA 国際理解教育：パレスチナ問題」を行うなど、より日常の中に海外との他流試合の機会ができるようになっている。

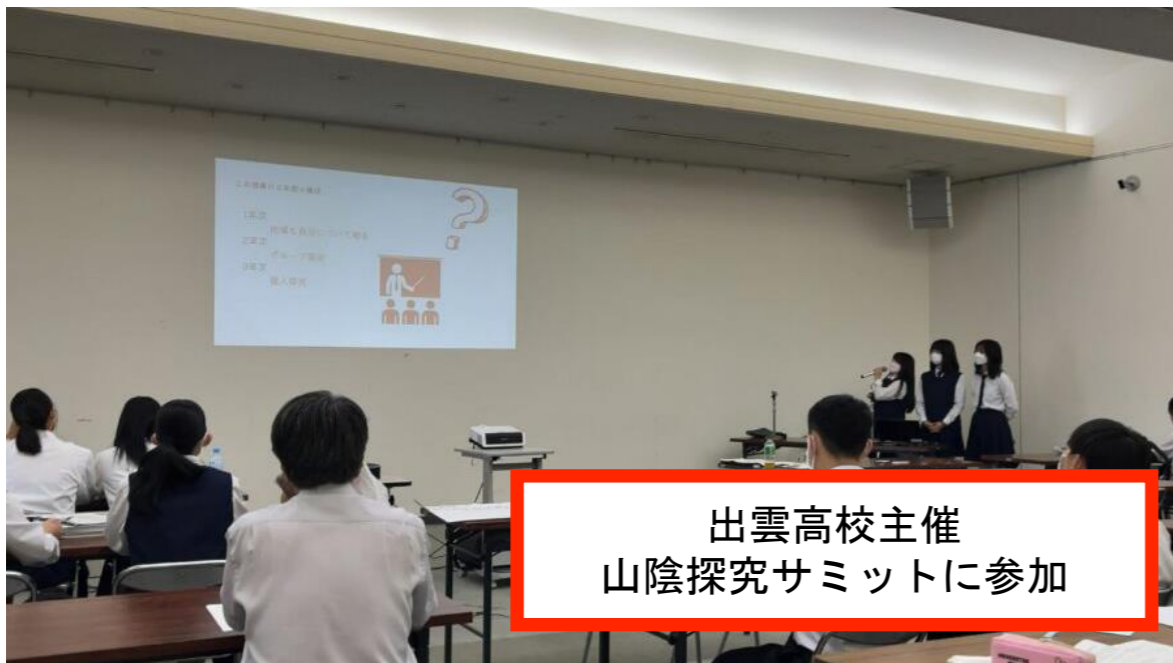
研究開発計画2 「国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施」



松江北高校との交流



東北芸工大での中間発表



出雲高校主催
山陰探究サミットに参加



他地域コーディネーターと
研修旅行のプログラム設計

他校との他流試合では、県内の高校との交流機会だけでなく、大宮高校（埼玉）の生徒と探究プログラムを実施したり、神山高校（徳島）の生徒と交流プログラムを実施するなど、徐々に対面での他流試合も実施できるようになってきている。コロナ禍で海外渡航を断念した研修旅行も、他地域コーディネーターとプログラム設計をしたり、大学生向けに中間発表をしたりするなど、他流試合を通して、4つの力を磨く機会としている。

研究開発計画3

「地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施」

【研究計画内容】

総合的な探究の時間と全ての教科・科目をつなぎ「地域未来探究」を実施する。また、地元三町村の小中学生の探究学習を高校生がサポートする「（小中高連携型の）地域未来探究」についての実施も検討する。授業構成等の検討は「地域に開かれたカリキュラム・マネジメント」を前提に、コーディネーターや地域住民等を巻き込んだ形で実施する。



地理×JICA 国際理解教育
「パレスチナ問題」

テーマ	○○×○○	概要
カラオケ店の料金設定	数学×地域	『海士町にカラオケ店を作ろう』というテーマで、その料金設定について不等式や関数を用いて考察した。
確率を英語で学ぶ	数学×英語	集団の中に同じ誕生日の人が少なくとも1ペア存在する確率について英文で学び考察した。
海士町の観光	総探×数学×地歴	『海士町はどのような新しい観光のかたちを目指せばよいか』という問いに対してデータ分析・統計（数学）と観光の歴史的資料（地歴）から考えた。
ニホンミツバチ	総探×家庭科×英語	『なぜ西ノ島でニホンミツバチは復活したのか』という問いに対して、仮説を立てて、ゲストとの対話で検証する授業を行った。
牧畑	総探×数学×国語	『なぜ知夫里島の牧畑は衰退したのか』という問いに対して、モデル化（数学）と複数資料の読み取り（国語）で考察する授業を行った。
リフレッシュ	総探×国語×体育	『自分に合ったりリフレッシュ方法を身につける』というテーマで、身体を動かしたりして自分のストレスの度合いを言語化していく授業を体育館
金属の歴史	化学×世界史	金属の単体か
宇宙エレベーター	英語×物理	と歴史的事実 宇宙エレベーターである必要性を、物理教員が解説した。

総探×教科・教科×教科の
実践実績表（令和3年度）

夢探究（総合的な探究の時間）では、令和2年度・3年度と、2学期前半に、コラボレーション授業として、1つの地域×2つの教科において、テーマを設けて探究的な学びを体感できる授業を実施した。また、3月には、コラボレーションDAYとして、生徒からも希望テーマを集めて、終日コラボレーション授業を展開する1日を設けた。各教科でも、教科と地域内外のリソースをつなげたテーマでの授業や複数教科同士のコラボレーションも起こるようになっていった。また、それらの実践を伴走者フォーラムで島内外の教員と学び合う機会を設けることで、より深く、広がる仕掛けをしていった。

研究開発計画3

「地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施」



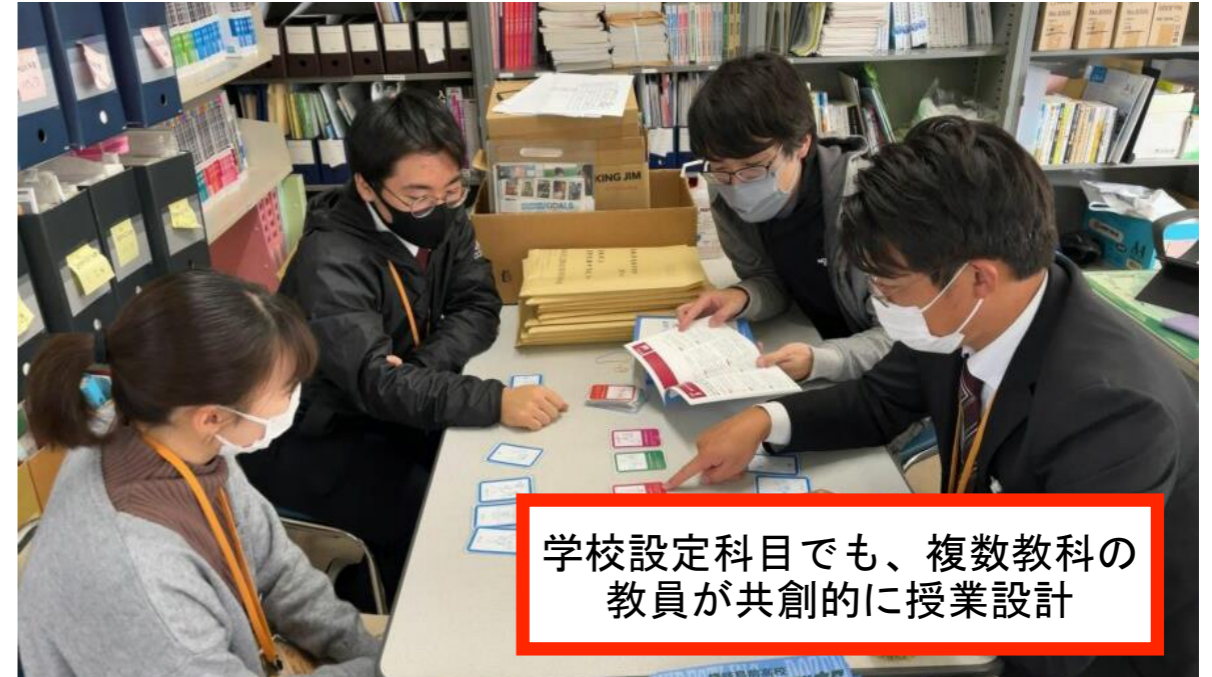
コラボレーションDAY
「金融（数学×家庭科×社会）」



2022年7月広島大学にて、
実践発表会を実施



1年夢探究で、文系・理系・
分離融合型のゼミ形式授業



学校設定科目でも、複数教科の
教員が共創的に授業設計

事業開始当初は、夢探究（総合的な探究の時間）の中に枠を設定し、コーディネーターによる丁寧な伴走を必要としていたが、各教科や学校設定科目の中にも、教員同士が主体的に授業設計を行い、日常的にコラボレーション（「地域未来探究」）が起こるようになってきている。

研究開発計画4 「「伴走者フォーラム」の実施」

【研究計画内容】

他校や他地域への普及を目的に「伴走者」向けのプログラムを実施する。ただし、あくまでも「事業成果（成功事例）の普及」ではなく、伴走者であり続けるための「問いの普及」を目指し、「地域・社会に開かれた教育課程」を構築するために教職員がどのようにあるべきなのか、生徒たちの探究活動にどのように伴走すべきのかなどを、大人たちがともに探究できる場を構築する。



2020年度 伴走者フォーラム
「新しい時代の「寄り添い」とは」



2021年度 伴走者フォーラム
「未来の授業 教科共創探究」



2022年度 伴走者フォーラム
「先生のマイプロとは？」



地域内外の教育関係者に関いた伴走者フォーラムを毎年実施し、延べ200名を超える参加者と共に伴走者であり続けるために、学び合う機会をつくった。また、そこでの出会いをきっかけに、他校の教員と自主勉強会を開く教員も出てきている。

【参考】

2020年度HP記事 <https://www.dozen.ed.jp/local/4244/>

2021年度HP記事 <https://www.dozen.ed.jp/teachers/5397/>

2022年度HP記事 <https://www.dozen.ed.jp/teachers/5980/>

補足

「本事業推進によって起こってきた生徒と大人の協働・共創」



本事業では、研究開発テーマを、「学校と地域との協働」という観点で深めてきた。カリキュラムやさまざまな活動において、地域内外と協働する場面が増えてきた中で、「生徒」と教員・地域内外の大人が協働・共創する場面が多く出てきている。

研究開発推進

学校内外の体制構築における成果と課題

【体制】

校内の推進体制としては、学校経営会議や運営委員会、職員会議等を中心に本事業を推進している。また、4名のコーディネーターと本事業におけるカリキュラム開発等専門家がそれに伴走しながら、コンソーシアムおよび運営指導委員会を設けることで、校外とも連携しながら推進している。

会議の様子



学校経営会議



運営指導委員会



推進協議会（コンソーシアム会議）



運営「共創」委員会

【学校経営会議】月に1度の学校経営会議では、本校管理職に加え、学校経営補佐官2名（地域内在住・地域外在住）とコーディネーター1名で、本事業における研究開発も含めて、学校経営目標のPDCAを協議している。

【推進協議会（コンソーシアム会議）】本校教職員・コーディネーターに加え、地域の方々が参加している推進協議会は、毎年4～5回程度開催し、地域目線での助言・アドバイスだけではなく、活動サポートなどを行なっていただいている。

【運営指導（共創）委員会】本事業における運営指導委員会は、単に助言・アドバイスをする・もらう関係ではなく、「共に創る」関係性を目指し、運営共創委員会と位置付けている。2022年7月に開催した運営共創委員会では、出前授業やフィールドワーク、カリキュラムを共に考える機会として、現場の教職員やコーディネーターと協議をした。

課題

本事業を3年間推進していく中で、学校経営会議で本事業の研究開発を経営目標の中に位置付け、推進協議会で地域との協働を進め、さらには運営共創委員会で、外部の専門家たちの知見を現場に活かしていく流れができています。一方で、これらの動きを研究開発推進チームだけではなく、校内教員へ即時的・効果的に情報共有する仕組みづくりが課題となっている。

研究開発推進

学校と地域との協働を推進するコーディネーターの活動における成果と課題

【コーディネーター】

本校では、本事業の研究開発の推進も含め、4名のコーディネーターが学校魅力化の推進をしている。

コーディネーターの活動の様子



学校と地域をつなぐ
授業のコーディネート



地域や学校と卒業生をつなぐ
卒業生会のコーディネート



学校経営目標の推進のための
学校行事のコーディネート



グローバル探究含む
グローバルとの接続



教職員の学びを深める
教職員研修・勉強会の開催



本事業の研究開発を普通科改革
の新学科カリキュラムへ波及

コーディネーターは、生徒×生徒、生徒×教員、生徒×地域、教員×教員、教員×地域、島前地域×他地域、島前地域×海外など、さまざまな既存のコンテンツを組み合わせ、学校経営目標を踏まえながら、本事業を自らも推進し、さらには、推進できる体制や環境づくりにも貢献している。特に、異動や入れ替わりの多い本校においては、地域の人材や地域の動きを熟知するコーディネーターの存在は、今後も大きいと言える。

課題

本校では、10年以上コーディネーターという存在と共に、地域との協働を進めてきた。現在では、学校経営補佐官として、学校経営にも携わるようになり、「人が変わっても進化し続ける学校経営」を掲げ、学校経営会議を実施している。しかし、他校他地域では、学校とコーディネーターのパートナーシップ構築について、苦しむ事例もきく。今後は、他校他地域にも本校の知見を活かし、貢献していきたい。

研究開発成果

本事業における目標設定と結果

「本構想において実現する成果目標（アウトカム）」

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	卒業後のグローバルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合）					
目標設定の考え方	グローバルなビジョンを描き、グローバルな進路を選択する生徒比率					
対象生徒（計画値）	-	-	12	13	15	15
対象生徒以外（計画値）	-	-	-	-	-	-
対象生徒（実績値）	-	-	12.5	12.0	未定	未定
対象生徒以外（実績値）	-	-	-	-	-	-

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）					
目標設定の考え方	隠岐島前地域や日本全国で開催される隠岐島前地域との協働に係るワークショップへの参加卒業生数					
対象生徒（計画値）	-	-	5	10	15	15
対象生徒以外（計画値）	-	40	50	70	85	100
対象生徒（実績値）	-	-	10	3	35	35
対象生徒以外（実績値）	-	40	11	51	105	105

研究開発成果 本事業における目標設定と結果

「地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）①」

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	主体性、協働性、探究性、社会性における「自己認識」で肯定的な意見が70%以上					
目標設定の考え方	「高校魅力化評価システム」における事業開始時点の数値から数値目標を設定					
対象生徒（計画値）	69	69	70	72	75	75
対象生徒（実績値）	61	69	68.7	72	73.6	73.6

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的な意見が80%以上					
目標設定の考え方	「高校魅力化評価システム」における事業開始時点の数値から数値目標を設定					
対象生徒（計画値）	71	76	78	80	83	83
対象生徒（実績値）	71.6	76.7	72	74.8	76.9	76.9

研究開発成果 本事業における目標設定と結果

「地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）②」

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的な意見が90%以上					
目標設定の考え方	「高校魅力化評価システム」における事業開始時点の数値から数値目標を設定					
対象生徒（計画値）	81	85	86	88	90	90
対象生徒（実績値）	81.5	84.5	79.2	85.8	91.1	91.1

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	伴走者フォーラムへの参加者数					
目標設定の考え方	全国に取組を広げる際に、率先垂範で地域や生徒の探究学習に伴走できる人の数					
参加者数（計画値）	-	-	10	15	100	100
参加者数（実績値）	-	-	70	50	100	100

研究開発成果 本事業における目標設定と結果

「地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）」

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
項目	安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における大人の肯定的な意見が85%以上					
目標設定の考え方	「高校魅力化評価システム」における事業開始時点の数値から数値目標を設定					
対象生徒（計画値）	-	78	80	82	85	85
対象生徒（実績値）	-	77.6	73.1	83.4	未実施	未定

今後の方針 研究開発の継続と集大成としての新学科（地域共創科）へ

【新学科（地域共創科）】

本校では、普通科改革として、新学科（地域共創科）設置へと挑戦する。それまでの普通科は残しながら、新たに地域共創科を設置し、2年生進級時に、学科選択によってわかれていく。本事業の研究開発を、学科という形で活かし、さらなるグローバル人材の育成を進めていく。

新学科（地域共創科パンフレット）

地域共創科に関する Q&A

Q1 地域共創科の入学から卒業までの流れはどのようになりますか？

高校入試の際に80名を募集し、入学から1年間は全員が普通科として共通カリキュラムで学びます（入学時に学科選択はしません）。1年2学期末（12月頃を予定）に各自の興味関心や進路希望などに応じて学科選択をし、2年次から普通科か地域共創科に分かれて学びます。それぞれの定員は40名となります。生徒の皆さんが安心して学科選択できるよう、教職員がきめ細かくサポートしていきます。

Q2 地域共創科は大学進学で不利になることはありませんか？

大学入学共通テスト（旧センター試験）での進学を目指す場合は、普通科に進級することを勧めます。もちろん、地域共創科でも大学入学共通テストを受験することはできますが、受験科目によっては放課後や曜限学習センターを活用して主体的・自律的に学ぶ必要があります。一方で、地域のリアルな現場で実践的に学ぶことで総合型選抜（旧AO入試）や推薦選抜では他校にはない強みを発揮できると考えています。近年、国立大学でも総合型選抜の実施率は75%を超えているため、大学進学で不利になることはないと考えています。

Q3 地域共創科の育てたい人材像を教えてください。

育てたい人材像はこれまで本校が掲げてきた「グローバル人材」であり、足元から実践していける人材であり、どこにいてもふるさとを思いながら、自分自身や地域の特性を活かして活躍できる人材としています。地域共創科では、「仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る」をスローガンに、2ページにある「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」を、履修課題が明確に絡み合うリアルな地域の現場をフィールドに磨いていきます。

Q4 地域共創科に進む時点で、探究したいテーマが明確になっている必要はありますか？

1年終了時に探究したいテーマが明確になっている必要はありませんが、仲間と共に、大人と共に、地域と共に実践的に学んでいく姿勢・態度は必要になります。

Q5 地域共創科に進んだ場合、部活動はこれで通りますか？

部活動はこれまで通り継続できます。むしろ、高校時代にしかできない部活動には熱心に打ち込んでください。部活動でも地域の方々と関わる機会が多くありますし、何よりも挨拶や礼儀など人間的にも磨かれる部分が多くあります。普通科であっても、地域共創科であっても、部活動に参加することを積極的に勧めます。

Q6 地域共創科の教育課程を教えてください。

地域共創科の教育課程は以下の通り予定しています。なお、普通科の教育課程表については、本校ウェブサイトに掲載していますのでご確認ください。

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通科	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	
地域共創科	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	

島根県立隠岐島前高等学校
OkI-Dozen Senior High School

社会が急速に変わりつつあるなかで、2022（令和4）年の春、隠岐島前高校に地域共創科が誕生します。

これまでと変わらないこと

- ① 普通科は継続します。これまで通り、全日制普通科は継続します。難易度学びながら大学入学共通テスト（旧センター試験）をはじめ、国立私立大学等に進学可能な学習機会を確保します。あわせて夢探究をはじめとする本校独自の特色の科目も継続します。また、学級数に変わりはありません。これまで通り2学年80人が定員となり、教職員の数も変わりません。
- ② 高校入試はこれまで通りです。島根県公立高等学校入学希望者（高校入試）は、一般選抜も推薦選抜も大きな変更はありません。入学時は全員が全日制普通科として入学します。細かい変更点は11月頃に島根県教育委員会の実施要綱でご確認ください。
- ③ 1年次は共通カリキュラムです。これまで通り1年生は全員が共通カリキュラムで学びます。隠岐島前出身の生徒と島嶼留学の生徒が互いの違いをいかし合いながら協働できる関係性を構築し、学びに向かう姿勢・態度の土壌をつくる1年次です。

これから変わる点

- ① 新たに「地域共創科」が設置されます。2022（令和4）年度から「普通科」と合わせて、新たに「地域共創科」が設置されます。これは文部科学省の普通科改革（※1）の流れを踏襲して実施するもので、より地域の特長を生かしたカリキュラムで学ぶことができる新しい制度です。（詳細はQ&Aページを参照ください）
- ② 2年生から学科が分かれます。2年生から「普通科」と「地域共創科」の2つの学科に分かれます。学科は1年2学期末（12月頃を予定）に選択する予定です。学科選択は卒業後の進路によって非常に重要であるため、1年次に先生および保護者の方を対面に説明会を開催し、きめ細やかにサポートする予定です。
- ③ 「地域共創DAY」が設置されます。地域共創科における2年次の「地域共創DAY」と3年次の「グローバル未来共創」は、それぞれ週6時間分あり、1日をつかって地域に飛び出し、地域のリアルな現場で実践的・探究的に学ぶ時間をカリキュラムの中で設けます。

仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る

社会はこれからも大きく変化していきます。社会の変化が大きな時代ですが、その変化はますます激しくなることが予想されます。AIやIoTの登場で都市部だけでなく地域社会も大きく変化しています。その変化の中で自分らしく、主体的に生きていくことが大切になります。

隠岐島前高校が目指す生徒像

「普通科」であっても「地域共創科」であっても、目指す生徒像は「グローバル人材」であり、変わりありません。「グローバル人材」を目指すための本校の教育目標を改めてご紹介します。

- 1 真摯な探究に向け、協働的に取り組む探究する人の育成
- 2 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する人の育成
- 3 道徳の養育をもち、主体的、意欲的に行動する人の育成
- 4 心身ともに健康、情緒豊かで、他人を思いやる人の育成

地域共創科のカリキュラムで伸ばしたい資質・能力とは

新学科「地域共創科」では、意志ある未来を共に創っていくために、とくに4つの観点を大切にしています。これらの資質・能力はこれらの人生で宝物となることを想定し、高校時代に基礎を築くものです。

- 1 主体性：未知なる物事に對して一歩踏み出す・踏み込むことができる
そのために、困難や未知に向かって一歩を踏み出す経験をしてもらいたいと考えています。
- 2 協働性：自分を活かしながら、多様な人と協働することができる
そのために、多様な世代を巻き込み、行動に責任を押しつけ経験をしてもらいたいと考えています。
- 3 探究性：適切に関わり続けることができる。適切に関わり続けることができる
そのために、進歩体験だけでなく失敗体験さえも学びに生かせる経験をしてもらいたいと考えています。
- 4 社会性：小さな行動・小さな価値を創り続けることができる。地域に貢献することができる
そのために、地域に暮らしやすさを感じ、納得するまでやり続ける経験をしてもらいたいと考えています。

地域共創DAYのイメージ

地域から得た思いを共有し、思いを込めた活動に活かす
新たな価値を創るために一歩を踏み出す
手を動かすことで生かす地域の宝を伝える
地域を元気づけよう、地域を元気づける
地域共創DAYについて、隠岐島前地域ならではの伝統文化の体験や様々な事業所で実践的な活動など、地域を創る一人として実社会の中で学びます。その際、しっかりと振り返りの機会を設けることで、より主体的により自律的に考え、行動することができるように高校・隠岐島前学習センターをサポートします。

【参考】

新学科（地域共創科）特設ページ <https://www.dozen.ed.jp/local/5383/>